

「電子契約」導入のメリットと注意点

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴いテレワークが普及する中、社員が紙の書類に捺印をするために出社する「ハンコ出社」が問題になり、その代替手段として、「電子契約」を利用・検討する企業が増えています。

そもそも電子契約とは

従来の「紙と印鑑」を用いた契約と異なり、電子契約は紙を使用せず、電子署名やタイムスタンプといった技術を用いて契約を締結します。契約書は電子データとして保管・管理することになります。

電子契約導入のメリット

① コスト削減

電子契約は、インターネット上でデータを受け渡すため、郵送代や印刷代、人件費、書類の保管費用(法人税法上、書面の契約書の保存義務は7年)等を削減します。書面の契約書に必要な印紙も、電子契約では不要であると解釈されています。

② 業務の効率化

書面契約と異なり、電子契約では相手先へ出向くことも、郵送も不要です。瞬時に相手へ契約書が届くため、スピーディーに契約が完了します。また、契約変更にも柔軟に対応でき、過去の書類も、検索機能を利用することで簡単に探し出すことが可能なため、業務の効率化を図ることができます。

③ コンプライアンス強化

電子署名とタイムスタンプの付与によって契約書の改ざんを防止できるとともに、データで管理することにより紛失や消失のリスクが下がります。また、契約業務の進捗や履歴を把握でき、情報管理が容易になります。

電子契約導入の注意点

① 電子契約できないケースがある

書面による締結や交付が義務付けられている契約書も存在します。「定期借地契約」「定期建物賃貸借契約」「訪問販売」などがその一例です。デジタル化が可能な契約か、事前に十分確認する必要があります。

② 契約相手の協力が必要

契約は双方の合意により成り立つため、電子契約実施の際には、契約相手の協力が必要不可欠です。契約の種類によっては、相手方に手間やコストが発生する場合あり、十分な説明と理解が必要です。

電子契約サービスを選ぶポイント

契約書を電子化するためには、電子契約サービスを提供する会社を選択する必要があります。

① セキュリティは万全か

契約には機密情報が多く含まれているため、盗難・流出・改ざん等に対応できるセキュリティ機能の整ったサービスを選びましょう。

② コストパフォーマンス

初期費用・ランニングコスト・オプション費用の確認が必要です。安くても、セキュリティが脆弱なシステムはお勧めできません。

③ 自社のニーズに合っているか

使いやすさ、検索機能、他システムとの連携、署名方式等、自社の求める用途に合ったサービスを提供する会社を選ぶことが大切です。

契約以外にも急速に進んでいるデジタル化社会。これに対応すべく、電子契約について一度検討してみてはいかがでしょうか。

ちょっと一服 クロスワードパズル

【ヨコのカギ】

- ① コロナ禍で増えています。自宅を拠点として仕事をする〇〇〇〇勤務。
- ⑤ 電子契約の導入で無くなるかも!?
- ⑥ 「得意先へこれを持っていくと交際費になりますか?」
- ⑦ 節約の〇〇あって、今期の利益大幅アップ!

答え (正解は次回朝日だよりに掲載)

A	B	C	D
---	---	---	---

でしょ!

1	2	3	4
			C
5			
			B
6			
		7	
	D		A

- ② 特定の文書に課税され、これを貼ります。
 - ③ 世界の消費税率、日本は〇〇〇〇、低いか?(二〇二〇年消費税率高い国ランキング、日本は三十八位です。)
 - ④ 上級行政機関が下級行政機関に対し発する命令。
- 【タテのカギ】
- ① 相続放棄とは、被相続人のすべてのこれを相続しない、とする手続きの事です。

(文責: 小田原事務所 坂井 絵美)